

2021年1月30日

2020年度 聖路加国際大学大学院
看護学研究科 課題研究論文

中学生および高校生における
援助希求の生起要因についての文献検討

Literature Review of Factors Related to
Behavior or Attitude of Junior High and High School Students to
Seek Help from Others

19MN008

兼武 真央

中学生および高校生における援助希求の生起要因についての文献検討

氏名：兼武真央 指導教員：浦口真奈美先生

要旨

本研究は、中学生および高校生が他者に対して援助を求めることを意図する又は、他者に援助を求める行動を起こす際に影響を与える要因について明らかにすることを目的とする。

医学中央雑誌 Web (Ver. 5) および Cinii にて、「中学生および高校生」に関するキーワードと「援助希求」に関するキーワードを AND 検索した。検索時期は 2020 年 4 月から 11 月であった。医学中央雑誌 Web (Ver. 5) では 213 件、Cinii では 209 件が得られ、援助希求の生起に着目しているものといった適格基準を満たし、悩みや困りごとの中心が疾患などに因る可能性がある対象者のもの等を除外し、医学中央雑誌 Web (Ver. 5) では 13 件、Cinii では 45 件が対象となり、2 つの検索エンジンでの重複文献 8 件を除き 50 件を分析対象とした。

対象となった文献の対象者は、中学生が 31 件、高校生 11 件、中高生 3 件、高校生と大学生等 3 件、大学生 (中学生時を回想) 2 件であり、中学生が多くみられた。対象文献から、抽出された援助希求の関連要因は、内的要因・外的要因に分けられた。内的要因では、【本人の属性】、【本人の性格特性】、【本人の能力 (スキル)】、【本人の自己評価・自己認識】、【本人の精神的健康状態】、【本人の行動】、【相談・悩みの認識】、【他者への認識】、【学校生活への認識】 の 9 つが得られ、外的要因では、【環境要因】、【他者の属性】、【他者の行動特性】 の 3 つが得られた。影響があったものとして、友人に対しては相談を行いやすく、なおかつ、女性は友人へ援助を求めやすくなっていた。また、相談への肯定的見積もりの予期や、教師の日常的な小さな気づかい、援助者へのポジティブイメージや信頼感も援助希求を高めた。一方で、羞恥心や規範意識、問題解決への自助努力は相談を求めにくくする可能性があった。

これらの結果から、実践への示唆では、友人同士の相談をきっかけとして、必要時には大人を頼ってほしいと伝えることが挙げられる。他にも、教員が生徒との日常的なコミュニケーションの中で、約束事を守るといった小さな気づかいを意識的に心がけ、生徒が援助を求めやすい環境づくりをすることである。そして、養護教諭等は生徒に身近な専門職として、メンタルヘルスの正しい知識の普及や、ストレスマネジメントが生徒自身でできるように支援していくことが求められる。また、教員や保護者と連携を取りながら、学校全体が一体となった相談支援体制が重要である。